

<健全性確認結果の報告>

- ・ 11日 20:56, 運転員による点検結果と合わせて, 以下の所内電源設備の状況が発電所対策本部に報告された。
 - 1号機 : M/C, P/C 使用不可。
 - 2号機 : P/C は使用見込み有。M/C 使用不可。
 - 3号機 : M/C, P/C 使用不可。
- ・ 所内電源及び外部電源の現場状況確認の結果, 外部電源の早期の復旧は困難, また, D/G 本体や M/C 等は水没・浸水状態であり早期の復旧は困難であることから, 使用可能な所内電源設備と電源車を用いた電源復旧を目指した。
- ・ 並行して, 工務部門では 12 日から新福島変電所の復旧を初めとした外部電源復旧工事を開始した。

【1,2号機電源復旧の準備】

- ・ 1,2号機は原子炉への注水状況が不明で, 3号機は原子炉への注水が行われていたことから, 1,2号機の電源復旧を優先。11日夕方から, 復旧班は, ケーブル手配や復旧機器の選定等, 電源復旧の準備作業を開始した。
 - 使用見込みのある2号機 P/C のうち, 接続されている負荷やケーブル敷設の作業性等から, 2号機 P/C (2C) 動力変圧器 (6.9kV/480V) を用いて電源復旧を行うこととした。11日 23:00 頃, 復旧班 2名と協力企業 1名は, 暗闇の中, 懐中電灯を用いて現場調査を行い, 2号機タービン建屋の定期検査用仮設ケーブル貫通口が使用可能であることを確認。その近傍の2号機タービン建屋脇に高圧電源車を配置することとした。
 - 復旧機器としては, 原子炉への高圧注水が可能なほう酸水注入系(以下, SLC) 等を復旧することとし, 各機器につながる 480V 小容量低圧電源盤(以下, MCC) の位置など, 電源供給の経路を確認。
 - 仮設ケーブルの敷設距離は, 機器配置図を用いて, 6.9kV の「高圧電源車~P/C」(以下, 高圧側) の距離が約 200m, 480V の「P/C~MCC・各機器」(以下, 低圧側) の距離が約 80m と算出。
 - 高圧側のケーブルは, 発電所近辺の協力企業事務所(以下, 発電所構外企業事務所)に, 4



写真のケーブルは約 15m で重さは約 90kg。1,2 号の電源復旧はこの 10 倍以上の長さを使用。(後日撮影)